

やまがた米だより

No. 1

令和3年7月28日



山形県農林水産部県産米ブランド推進課
山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部
山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部会議を開催



遠方の委員はリモートで参加し、活発な議論が交わされました



本部長である吉村知事

7月21日（水）、令和3年度第1回山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部会議が開催されました。本部長である吉村知事は、「本県産米の需要拡大に向け、『つや姫』『雪若丸』をけん引役として、『米どころ山形』の存在感を一層高めていくため、関係機関が一体となってブランド化を更に進め、高品質で美味しいお米を全国に届けてまいりたい。」と挨拶しました。

会議では、令和4年産「つや姫」の生産量は約53,500t（前年比+1%）、作付面積は9,900ha程度（前年+100ha）、同じく「雪若丸」の生産量は約23,600t（前年比+5%）、作付面積は4,000ha程度（前年+200ha）とすることを決定しました。

今年も、高い品質と最高のおいしさを誇る「つや姫」「雪若丸」を全国の皆さんの食卓にお届けできるよう、生産者や関係機関が一丸となって取組んでまいります。

山形つや姫マイスターの会を開催

7月6日（火）「山形つや姫マイスターの会」が開催されました。

昨年度の活動報告の後、役員改選が行われ、今年度の会長に飯豊町の鈴木寛幸マイスターが就任しました。鈴木マイスターは、「これまでと変わらずに品質と食味重視の『つや姫』をつくり、コロナ禍でも皆さんと協力し前に進んでいきたい。」と意気込みを語りました。

今年は、山形つや姫マイスターの会が主催する新たな食味コンクールを計画！各マイスターからは、様々な角度から意見が出され、実施に向けて議論を深めていました。

山形つや姫マイスターは総勢70名。今年もその高い技術力と「つや姫」に対する熱意をもって、それぞれの地域の生産者への指導や「つや姫」のPRに力を入れています。



新会長に就任した鈴木マイスター

「スマートつや姫広域実証研究会」が活動開始



「スマートつや姫」とは



ロボット技術やICT等を活用した「スマート農業」※を取り入れて栽培した「つや姫」のこと。（※例 自動走行トラクター、離れた場所から田んぼの水の給排水ができる水管理システム）

J A職員や市町職員など 33 名が参加

スマートフォンで生育データを見る参加者

庄内地域のJ Aや市町、県などで構成される「スマートつや姫広域実証研究会」が5月 13日に設立し、「スマートつや姫」の実装に向け動き出しました。

同研究会では5月26日に講習会を開催し、人工衛星画像を活用して田んぼ全体のイネの生育状況をスマートフォン等で確認できる生育診断技術を学びました。

参加したJ A職員たちは、自分のスマートフォンで昨年の生育データを見ながら、「この田んぼ、現場で生育は十分だと判断したっけ。このデータでみても同じ結果だ。」「生育の状況別に色分けされているからとても見やすい。」「人力ですべての田んぼを隅々まで見て回るのは不可能だが、これなら手軽に確認できる。」と感嘆の声をあげていました。また、「若手の生産者も興味を持ちそうでいいね。」「品種ごとに分かれているともっと使いやすいかも。」といった意見も聞かれました。

この新しい技術を「つや姫」づくりに生かすため、同研究会では「スマートつや姫」のモデル地区を設置するなどして、技術の研鑽と普及の拡大を図っていく計画です。栽培方法がスマートに進化している「つや姫」に、今後もどうぞご期待ください。

こんなことしています

生産者に学ぶ！ 専門スキルアップ研修



熱心に研修を受ける参加者（7月16日）

日々現場に足を運び、生産者に寄り添って栽培技術指導を行っている県の普及指導員。県内各地の特徴的な取組みを学ぼうと、生産者のほ場などを巡り研修を行いました。参加者は、スマート農業を取り入れた大規模経営の現場や、大豆づくりで長年高品質・高収量を達成している農事組合法人の取組みを実際に目にし、大きな刺激を受けた様子でした。

研修で得た学びを日々の普及活動に生かし、県全体の作物の評価向上に貢献していきます。